

初期研修医（ジュニアレジデント）		
1	診療科名	臨床検査部（科）
2	診療科紹介	臨床検査部は臨床検査全般を担当する部門で、具体的には病院で検体検査、生理機能（生体）検査およびその部門管理を担当している。
3	臨床研修指導医	臨床検査指導医（紺野啓、山本さやか）、超音波検査指導医（紺野啓、山本さやか）
4	研修概要	初期研修では、自分である程度の検査ができ、報告書の作成ができるとともに、検査結果に基いて個々の患者に必要な検査、治療について提案ができるようにする。
5	研修内容（1～3ヶ月間）	検体検査部門の研修では、尿沈渣標本・末梢血塗抹標本の作製と観察、グラム染色の実施と観察、免疫電気泳動・アイソザイムの判定を研修する。さらに全般的な検査データの読み方について症例検討の形式（RCPC）で学習する 生理機能（生体）検査部門では、心電図などの循環器検査、脳波などの脳神経機能検査、呼吸機能検査、全身すべての領域についての超音波検査などが行われているが、これまでの生理機能部門の研修者は、主として超音波検査を希望している。超音波検査は、循環器、消化器、乳腺と甲状腺、血管など多くの臓器を対象とするが、初期研修では最も基本となる消化器（腹部）超音波検査の研修を行い、基本的な検査と報告がひとりでできることを目標とする。なお研修期間に余裕のある場合、希望により、消化器以外の超音波検査や超音波以外の生理機能検査、あるいは検体検査などもあわせて研修することが可能である。
6	到達目標	【検体検査】 一般目標 検査の一部を実施、判定することができる。検査データの解釈ができる。 個別目標 1）尿沈渣標本・末梢血塗抹標本の作製と観察ができる。 2）グラム染色の実施と観察ができる。 3）免疫電気泳動・アイソザイムが判定できる。 4）全般的な検査データの解釈ができる。 【生理機能検査】 一般目標 腹部の基本的な超音波検査がひとりでできる。検査結果の報告ができる。 個別目標 1）臨床情報から腹部超音波検査のポイントを把握できる。 2）超音波診断装置をひとりで操作できる。 3）系統的な走査により、超音波で腹部を観察できる。 4）腹部のcommon diseaseについて超音波検査所見を説明できる。 5）腹部超音波検査の結果を報告書として報告できる。
7	週間スケジュール	
7-1	月曜日（午前）	検査室
7-2	月曜日（午後）	検査室
7-3	火曜日（午前）	検査室
7-4	火曜日（午後）	検査室
7-5	水曜日（午前）	検査室

7-6	水曜日（午後）	検査室
7-7	木曜日（午前）	検査室
7-8	木曜日（午後）	検査室
7-9	金曜日（午前）	検査室
7-10	金曜日（午後）	検査室
8	経験できる症例	検査室で検査を行う臨床各科の症例
9	指導医からのメッセージ	臨床検査は、現代医療においてきわめて重要な位置にあり、検査結果という診療情報なしでは現代の医療は成立しません。これらの検査を自分で施行でき、その結果を正しく解釈できるということは、皆さんがこれから進む専門分野に関わらず、医師としての大きな武器となります。また、研修中、検査を通して臨床各科の症例を経験することで、臨床医に必要な基礎的素養も身につけることができます。 なお1か月程度の研修でもある程度の力はつきますが、十分な実力を養うためには2か月以上の研修をお勧めします。